

令和4年度 県立芦屋高等学校 学校評価（目標と評価方法及び評価結果）

1 学校経営のテーマ

「芦屋高校で自分探し～自ら学び自ら考える力を育てる探究型学習の推進～」

○めざす「芦高」像

教育綱領「自治」「自由」「創造」の具現化と新たな学校文化の創造

- ・高貴な人格と確かな学力、健やかな体の育成を目指し、「徳育・知育・体育」を追究する学校
- ・地域の伝統校として期待され信頼される学校
- ・不易と流行、温故知新の気概が息づく学校

○めざす「芦高生像」

論理的思考力があり、自治を重んじるとともに自由で柔軟な発想ができる生徒

- ・変化の激しい時代において、様々な困難や課題に果敢に挑戦できる生徒
- ・志を高く掲げ、したたかにそしてしなやかに努力できる生徒
- ・「時を守り、場を清め、礼を正す」ことのできるこころ豊かで自立した生徒

2 本年度の重点目標

第3期「ひょうご教育創造プラン」を踏まえ、次の6項目を重点目標とする。

- (1) 「確かな学力や技能」の修得、「思考・判断・表現」の力を高める教育の推進
 - ア 基礎的・基本的な知識・技能の確実な定着を目指し、主体的に学ぶ姿勢を育成する。
 - イ 多様な選択科目の設置や少人数授業、きめ細かなキャリアガイダンス等を通して、自己実現につながる教育を推進する。
 - ウ 課題解決型学習や体験型学習を積極的に取り入れ、思考力・判断力・表現力を育成する。
- (2) 自治・自律の精神及び命と人権を尊重する「心の教育」の推進と豊かな人間性の育成
 - ア 成年年齢の引き下げへの意識も深め、社会生活上のルールやモラルを守る次元の高い倫理観を育成する。
 - イ 命の大切さを基盤とし、国内外の諸事象や SDGs 学習、災害対応等を通して、やさしさや寛容の精神を育み、自助・共助・公助の意識を育成する。
 - ウ いじめやハラスメント等への高い意識を育み、生徒の心のケアに当たる教育相談体制の整備を推進する。
- (3) 「健やかな体」の育成と安全教育の推進
 - ア 体力向上を意識し、スポーツ等に励みながら健康的な生活を実践する意識を育成する。
 - イ コロナ禍での感染症対策等、危機に対応できる力を育む安全教育を推進する。
- (4) 多文化共生社会の実現を目指す教育の充実
 - ア 「外国人生徒にかかわる特別枠選抜」の入学制度をもとに取出授業・日本語学習等の学習支援を行い、進路実現を支援するとともに、多様な文化背景をもつ生徒間での交流を促進する。
 - イ コロナ禍での国内イングリッシュキャンプや台湾の姉妹校、オーストラリアの交流校とのオンライン通信を企画し、コミュニケーション力の伸張を図り、国際理解を深める教育を推進する。
- (5) 教職員の資質・指導力の向上、協働体制の構築による学校組織力の強化
 - ア 探究型学習、ICT学習等の課題教育活動の推進への使命感の高揚、観点別学習評価を取入れた授業展開の推進等により教職員としての資質・指導力を高める。
 - イ 教科横断型の課題研究の推進、学校の諸課題の改善に向けた協働体制の強化により学校組織力の向上を目指す。
- (6) 地域に信頼され、地域の期待に応える開かれた学校づくりの推進
 - ア 学校の教育方針や教育内容について保護者や地域住民等への理解と協力を積極的に図り、学校への要望なども聴取しながら、地域に信頼される学校づくりを推進する。
 - イ 地域と連携し、「総合的な探究の時間」、「高校生ふるさと貢献・活性化事業」等の計画的な実施を通じて地域との連携を強め、開かれた学校づくりを推進する。

重点目標別自己評価結果

重点目標	実践項目	評価方法	評価	達成状況と改善の方策
(1)「生きる力」を育み、一人一人の自己実現を目指したキャリア教育の充実	① 最新の入試制度に向け、思考力・判断力・論理表現力などを備えて多様な人々と協働して学ぶ態度を身につけさせるために授業を工夫し、BYOD導入機も活用し、生徒の主体的な学びを進めていく。 【1年】	① 定期的に面談や進路アンケート、進路LHRを実施し、模試分析の資料等を使って生徒個人の進路実現に向けての意識づけ、到達度を確認し、評価に資する。 【1年】	B	① 新しい入試制度に向けた思考力・判断力・論理表現力などを身につけさせる授業が各教科やLHRで積極的に試みられた。学校評価アンケートでは、授業で情報機器が有効に活用されていると答えた1年次生は84%、学習や学校生活において活用できているは91%であった。今後は、進路指導も含めてさらに有効な活用をすすめていきたい。【1年】
	② 新しい入試制度に対応するため、思考力・判断力・表現力、主体性を持って多様な人々と協働して学ぶ態度を身につけさせるために授業を工夫し、アクティブラーニングを積極的に導入していく。 【2年】	② 定期的に面談や進路LHRを実施し、模試分析の資料等を使って生徒個人の進路実現に向けての意識づけ、到達度を確認し、評価に資する。 【2年】	B	② 担任より、進路及び3年次の選択科目履修に関し、個人面談を通して、助言や指導を行った。年次集会でも進路担当が中心となり支援するなどの体制を整えている。今後は、具体的なスケジュールを提示し、生徒一人ひとりが進路目標を主体的に考えていけるよう指導していく。 【2年】
	③ 進路分析を行い、個人面談を充実させて個々に合わせた指導を心がけていく。年次集会を開き、進路についての事や受験期でのアドバイスなど年次全体で受験に向かって頑張る雰囲気を作っていく。 【3年】	③ 卒業時の進路に関するアンケートを実施し評価に資する。 【3年】	B	③ 担任の先生方は個人面談や三者面談を複数回実施し、進路についてのアドバイスや確認を行った。年次集会においても全員が進路決定されるまで、思いやりの気持ちをもった環境作りができるように指導を行った。【3年】
	④ 日本学生支援機構予約採用奨学金をはじめとする奨学金案内を周知し、進学意欲の向上とともに社会に対する責任感を自覚させる。【総務】	④ 選考基準や選考過程に対する生徒や保護者からの意見を評価に資する。【総務】	A	④ 年次と連携して奨学金の内容の周知に努め、保護者からの質問にも丁寧に対応し、手続きを円滑に進めることができた。
	⑤ 読書センターとしての図書館機能の充実 【総務】	⑤ 図書の計画的購入・収集・廃棄が行われているか。読書感想文コンクールへの参加や図書委員会を中心とした図書サービスが円滑に運営されているか。【総務】	B	⑤ 図書の購入・廃棄については委員会などで内容をよく検討しておこなった。読書感想文では生徒が受賞するなど成果があったが、図書館の利用自体はあまり活発とは言えなかった。【総務】

<p>(1)「生きる力」を育み、一人一人の自己実現を目指したキャリア教育の充実</p>	<p>⑥ 生徒が自己実現を目指す過程において、必要性に気づくことにより社会性や規範意識を自発的に身に付けられるようにする。 【生徒】</p> <p>⑦ 進路別説明会を活用して、生徒の進路意識の向上に努める。 【進路】</p> <p>⑧ 高大接続に対応した進路の取り組みを、各教科・年次と連携して準備する 【進路】</p> <p>⑨ 「総合的な探究の時間」を通して学問や社会への関心を高め、自己と社会（地域）とのつながりを意識しながら、自己の生き方に深く関わる課題を発見し、考える力をつける。【ガイダンス】</p> <p>⑩ 各年次・教務課・進路課と連携し、生徒一人ひとりの興味関心と進路希望に応じた履修計画の作成を指導する。 【ガイダンス】</p> <p>⑪ 大人がどのように社会と深く関わり、社会の課題を解決しようと努めているかについて、専門家や社会人の講演を通して、それをこれから大人になる自分の問題として考える意欲を高める。 【ガイダンス】</p>	<p>⑥ 日々の生徒の取り組みの様子や表情より、生徒の成長や変化を逃さず確認する。年度末のアンケートも利用し変化を確認する。 【生徒】</p> <p>⑦ 進路別説明会、AUS Sインターンシップの実践 内容及び満足度に関するアンケートにより評価する。 【進路】</p> <p>⑧ 年度末に総括を行い年次からの意見をまとめて評価する。 【進路】</p> <p>⑨ 生徒のレポートや振り返りシート等を参考に、年次末に総括を行い、評価する。 【ガイダンス】</p> <p>⑩ 予備調査から科目選択の確定に至るまでの過程で、生徒がどれほど進路に関する情報収集ができていたか、また自分の興味関心を大切にできたかを、年次のアンケート等を用いて評価する。</p> <p>⑪ 行事实施後の生徒の感想、または振り返りシートなどを評価する。 【ガイダンス】</p>	<p>C</p> <p>B</p> <p>B</p> <p>B</p> <p>B</p> <p>B</p>	<p>⑥担任、年次の先生や顧問先生の働きかけによる規範意識の向上は感じられる。来年度は、さらに生徒が自ら規範意識を高め合う環境を作りたい。 【生徒】</p> <p>⑦ 進路別説明会などの行事を通じて、進路意識の向上が感じられる。本年度3年次6月実施の大学・学校別説明会を2年次3月中に行うなど、生徒の早期の進路意識の向上に努められるようにしたい。 【進路】</p> <p>⑧3年次実施の進路別説明会・夏季補習など教科・年次と連携して準備し行えた。さらに、いいものになるように努めたい。 【進路】</p> <p>⑨本校における新たな「総合的な探究の時間」は、まだ多くの課題を抱えながらも、昨年度に比べて定着し始めている。生徒たちの意識も高くなりつつある。【ガイダンス】</p> <p>⑩大学における入試科目が確定しない中で新教育課程にもとづく履修指導の難しさが浮き彫りになったものの、進路課、教務課との連携しながら、その解決を図った。 【ガイダンス】</p> <p>⑪学問や社会に関するこれまでの自分の思い込みや常識が一変される「学び」の喜びを経験した生徒も増えてきており、今後大学や地域と連携し、一層の充実を目指したい。 【ガイダンス】</p>
---	---	--	---	--

重点目標	実践項目	評価方法	評価	達成状況と改善の方策
<p>(2)外国人生徒の特別入学制度をもとに、多様な文化背景をもつ生徒間での交流を促進する。</p>	<p>① 外国人特別枠入試で入学した生徒に、取り出し授業・日本語教育等の学習支援を行って教科学習の理解を進め、進路実現を支援する。 【国際教育】</p> <p>② 姉妹校や海外の学校との交流、その他の学校行事を通して異文化理解を促進する。 【国際教育】</p> <p>③外国人特別枠入試で入学した生徒の多様な文化背景に合った読書環境を整える。 【総務】</p>	<p>① 当該生徒や保護者からの聞き取り内容、各教科の試験の到達度や日本語能力試験の結果などを評価に資する。 【国際教育】</p> <p>② 姉妹校や海外の学校との交流の様子、国際理解教育の学校行事でのアンケート結果を評価に資する。【国際教育】</p> <p>③ 多様な文化背景を持つ生徒のニーズに合った図書購入が行われ、啓発が行われたか。 【総務】</p>	<p>A</p> <p>B</p> <p>B</p>	<p>① 各教科の取り出し授業による手厚いサポートのおかげで、少しずつ理解度が上がり、学習意欲も向上した。日本語能力試験や英語検定にも積極的にチャレンジしている。 【国際教育】</p> <p>② 1年次対象に実施した国際理解教育講演会アンケートでは、42.5%が「非常に良かった」、55.7%が「良かった」と回答。一方で、コロナ禍で姉妹校や海外の学校との交流が途絶えている。今後、何らかの形で交流の機会を設ける必要がある。 【国際教育】</p> <p>③ 図書の購入については委員会などで検討し、計画的に行われたが、外国人生徒の利用に十分対応できたとは言いきれない。 【総務】</p>

<p>(3)基礎・基本の確実な定着と活用する力を育成し、確かな学力の育成及び個性や創造性を伸ばす教育の充実</p>	<p>① 自らの長所を伸ばし活かしていく。前段階として、授業、週末課題や小テストなどの地道な取り組みや、清掃活動や学校行事における役割など、全ての取り組みに全力を尽くすことができるチームを目指す。 【1年】</p> <p>② 自らの長所をさらに伸ばし活かしていくために、毎日の授業や小テストなどの地道かつ基礎的な取り組みや、学校行事やHR活動における役割など全ての取り組みで全力を尽くすことができる集団を目指す。 【2年】</p> <p>③ 補習や個別課題など、進路実現のために個々に応じた指導を行っていく。 【3年】</p> <p>④ 新学習指導要領に対応した教育課程については、必要な見直しを検討していく。また観点別評価についても、ワーキンググループと連携を図る。 【教務】</p>	<p>① 日々の生徒との対話を大切にして生徒の成長や変化を確認して身についた学力や意欲・関心を総括し、評価に資する。 【1年】</p> <p>② 日々の生徒とのコミュニケーションを大切にし、生徒の成長や変化を確認して身についた学力や意欲・関心を総括し、評価に資する。 【2年】</p> <p>③ 面談や日々の生徒とのコミュニケーションをとる中で、生徒のニーズに応じて適切な課題提供ができていくか確認していく。 【3年】</p> <p>④ 教職員の共通認識の醸成ができているか、教員アンケートなどにより状況を確認し、その結果を評価に資する。 【教務】</p>	<p>A</p> <p>A</p> <p>B</p> <p>B</p>	<p>① 学校評価アンケートでは、真面目に授業を受けられていると答えた1年次生が93%であったのに対し、小テストに積極的に取り組めたのは81%であった。80期生は「時を守り 場を清め 礼を尽くす」をスローガンとしており、多くの生徒は授業や清掃活動、学校行事に積極的に取り組んでいる。余裕をもった登校と気持ちのいい挨拶から一日を始める習慣を身につけることで、全体としてさらなる意識の向上を図っていききたい。 【1年】</p> <p>② 79期生は「挨拶 掃除 感謝」をスローガンに、生徒は授業や清掃活動、学校行事に取り組んでいる。修学旅行はコロナ禍により、当初予定していた台湾地方に行けなかったが、代替地として沖縄本島を実施し、生徒からは概ね満足である、との評価を得た。次年度は、集大成として、時間に余裕をもった登校と心を込めた挨拶を自然とできることで、芦高生としての誇りを培っていききたい。 【2年】</p> <p>③ 担任の先生方は機会があれば、個別面談を行い、受験に向けた学力や考え方に不安や疑問がないか確認を行った。 【3年】</p> <p>④ 新学習指導要領に伴い、入試科目の動向を確認しながら、教育課程の見直しを進めている。 【教務】</p>
---	---	--	-------------------------------------	--

<p>(3) 基礎・基本の確実な定着と活用する力を育成し、確かな学力の育成及び個性や創造性を伸ばす教育の充実</p>	<p>⑤ 公開授業・研究授業による授業力の向上を図る。 【教務】</p>	<p>⑤ 公開授業・研究授業および事後検討会の実施回数などを評価に資する。 【教務】</p>	B	<p>⑤ グループ分けをしており、本年度担当の先生方が、公開授業を行った。見学する先生方の人数を増やすことが必要である。 【教務】</p>
	<p>⑥ 教育用クラウド、BYOD等、ICTを活用した学習指導の支援を行う。 【広報・情報】</p>	<p>⑥ 年度末に教員・生徒にアンケートを実施し、その結果を評価に資する。 【広報・情報】</p>	B	<p>⑥ 学校評価アンケートでは、生徒の65%が授業で情報機器が有効に使われていると回答している。BYODの活用を中心にさらに推進する必要がある。 【広報・情報】</p>
	<p>⑦ 当事者意識を持ち、主体的に学校生活を送るために必要な「自治力」を養うことができる文化をつくる。 【生徒】</p>	<p>⑦ 生徒とのコミュニケーションを取ることにより、常に確認するまた、年度末のアンケートにて確認する。 【生徒】</p>	B	<p>⑦ 自治力向上についてのプロジェクトをスタートさせたことが最大の進歩。来年度はさらに多くの生徒がジチカツに興味関心を持ち参加できるような取り組みを、失敗を恐れずに実施していきたい。 【生徒】</p>
<p>⑧ 学習センターとしての図書館機能の充実 【総務】</p>	<p>⑧ 生徒作品集『あしたづ』の発行及び「探究・調べ学習」のための資料が整備されたか。図書館利用計画など「言語活動の充実」（学習指導要領）に即した支援・援助が行えているか。 【総務】</p>	B	<p>⑧ 『あしたづ』を無事発行することができた。図書委員会が日常継続的に活動し、図書の管理を精力的にこなした。図書館利用については、あまり活発だったとは言えない状況である。 【総務】</p>	

重点目標	実践項目	評価方法	評価	達成状況と改善の方策
<p>(4)教職員としての資質と実践的指導力を向上し、教職員の協働体制による学校の組織力の向上</p>	<p>① 学校行事の立案に際し、状況の変化に対応しながら、各課・年次との連携を深め、意見を集約・反映した計画を作成していく。 【総務】</p>	<p>① 行事計画の妥当性については、各行事の実施状況に対する意見を集約し、評価に資する。 【総務】</p>	B	<p>① コロナ禍による行事変更を今年度も余儀なくされた。できるだけ先を見据えた計画を心掛け、状況の変化に対応しながらも各課、年次の意見を反映した内容を計画に盛り込むように努めた。 【総務】</p>
	<p>② 校務支援システム・成績処理の安定的な運用を図る。新学習指導要領に伴う書式の変更に対応していく。 【教務】</p>	<p>② 成績処理・出欠処理などについて、正確かつ効率的な運用ができているか、アンケートを実施し、その結果を評価に資する。 【教務】</p>	B	<p>② 新・旧の学習指導要領により、1年と2・3年で成績処理が異なる状況となり、校務支援システムの設定などの見直し・確認を進めている。 【総務】</p>
	<p>③ 「学びのイノベーション推進事業」に基づいた校内のICT環境の整備を行う。 【広報・情報】</p>	<p>③ 年度末の時点で整備状況の確認を行い、その結果を評価に資する 【広報・情報】</p>	B	<p>③ ある程度環境を整えることはできたものの、修理費用を含め運用のための予算が確保されておらず、次年度以降は故障のため使用できなくなる機器が増えてくることが予想される。また、公道を挟む体育館方向へのネットワークが整備しておらず、災害時に体育館が避難所になったとしても「災害時無料 Wi-Fi 00000JAPAN」が使用できない状態のまま取り残されている。 【広報・情報】</p>

<p>(5) 地域に信頼され、地域の期待に応える開かれた学校づくりの推進</p>	<p>① 防災訓練を通じて、生徒一人一人の防災意識、自主性、判断能力の育成を図る。また地域との連携を深め、協力関係を継続していく。 【総務】</p> <p>② コロナ対策の状況下において、学校ホームページ等の可能な方法を駆使して情報発信を行う。 【広報・情報】</p> <p>③ 新型コロナウイルス感染拡大防止対策をとりつつ、可能な手法を駆使して中学生および保護者、中学校教員に対して広報活動を行う。 【広報・情報】</p>	<p>① 防災訓練時の生徒の行動、生徒の自治的活動状況を分析し、地域からの意見も参考にして評価に資する。 【総務】</p> <p>② 校内および校外アンケートを実施し、その結果を評価に資する。 【広報・情報】</p> <p>③ 実施することができた広報活動の数、および志願者数の増減結果を評価に資する。 【広報・情報】</p>	<p>B</p> <p>B</p> <p>B</p>	<p>① 水平移動を伴う避難訓練を地域住民とも連携して実施した。訓練を通して生徒が出身中学別の避難グループを認識し、主体的に判断して行動することの大切さを学んだ。 【総務】</p> <p>② 学校評価アンケートによると、学校HPを学校生活の様子を見ることに活用していると回答した保護者は46%に留まる。緊急性のある情報伝達以外にも日常的な学校生活についての情報提供が求められている。【広報・情報】</p> <p>③ 感染対策のため教室への映像配信によるオープンハイスクールやオンラインによる説明会の実施、芦屋市立中学校限定の説明会の開催など、可能な方法を駆使しての広報活動を行うことができた。実施時期を9月に変更したオープンハイスクールを中心に、約1200名の中学生を受け入れたが、希望者多数のため保護者の参加を中止した回もあった。【広報・情報】</p>
--	--	---	----------------------------	---

<p>(6) 自治・自律の精神及び命と人権を尊重する「心の教育」の推進と豊かな人間性の育成</p>	<p>① 他年次と調整の上、積極的に年次集会を実施し、対話の大切さを伝え、代議員やHR委員が中心となってクラスや年次の課題を発見し、自分たちで解決する力をはぐくんでいく。【1年】</p> <p>② コロナ禍で年次集会を実施するのは難しいことではあるが、感染防止対策をとる中で可能な限り集会を実施し、コミュニケーションの大切さを伝え、代議委員が中心となって、クラスや年次の課題を発見し、自分たちで解決する力を育んでいく。【2年】</p> <p>③ 積極的に年次集会を実施し、進路実現に向けてのアドバイス、コミュニケーションの大切さを伝えていく。様々な進路に向かう者同士でお互いに認め合い、高め合う環境を作る【3年】</p> <p>④ 清掃美化活動を通じて、生徒一人一人の自主性、責任感、公共心の育成を図る。 【総務】</p> <p>⑤ カウンセリング環境の整備 【保健】</p> <p>⑥ 救急救命法の啓発 【保健】</p>	<p>① 代議員会を開き、意見交換と相互評価を行い、その結果を評価に資する。 【1年】</p> <p>② 代議員会を開き、意見交換と相互評価を行い、その結果を評価に資する。 【2年】</p> <p>③ 生徒・保護者と連絡を密に取っていき、生徒の状況を把握し、情報共有や分析をしていく。 【3年】</p> <p>④ 美化状況、生徒の活動参加状況に対する意見を総括し、評価に資する。 【総務】</p> <p>⑤ カウンセリングの実施回数とコンサルテーションの内容の充実度を分析し、評価に資する。 【保健】</p> <p>⑥ 実施回数や内容を分析する。 【保健】</p>	<p>B</p> <p>B</p> <p>B</p> <p>A</p> <p>A</p> <p>B</p>	<p>① 年次集会を開き、80期の目標や学習・生徒指導面などの共通理解を図ることができた。代議員会を開き、クラスや年次の課題の共通理解を試みた。今後は、年次行事、クラス行事で代議員やHR委員が中心となって活動できる機会をさらに増やし、互いを尊重したコミュニケーション能力をより一層高めていけるよう取り組んでいきたい。【1年】</p> <p>② 年次集会を開き、79期の目標や学習・生徒指導面などの共通理解を図ることができた。代議員会を開き、クラスや年次の課題の共有する場を設けた。しかし、代議員やHR委員が中心となって主体的に特別活動に取り組むところまでには努力を要し、課題が残った。今後も、生徒と教師が、互いを尊重したより対話ができる機会を設けて、生徒の人間性を育みたい。【2年】</p> <p>③ 78期全員の進路が決定されるまでそれぞれが思いやりのある言動を心がけ、勉強など集中できる環境を維持していくように指導を行った。 【3年】</p> <p>④ 日常的な清掃活動を通して生徒の美化意識はある程度高まったと思われる。今年度は工事の影響で分担区域にも変更を余儀なくされたが、状況に応じて対応を重ねた。【総務】</p> <p>⑤ カウンセリングの実施回数は昨年度とほぼ同数であり、生徒と保護者とのつながりを継続できた。カウンセリング後に学級担任等を交え、内容的にも充実したコンサルテーションを実施できた。 【保健】</p> <p>⑥ 運動部マネージャーを対象とした救急救命法講習会を2月に二回に分け実施予定である。来年度は職員も含め早い時期に実施を検討している。 【保健】</p>
---	---	--	---	---